

コース名		科目名				対象学年	
公衆衛生社会医学		法医学				4	
開講学期		科目責任者		副責任者			
1・2 学期		三浦 雅布					
目的							
法医学とは医学的解明助言を必要とする法律上の案件、事項について、科学的で公正な医学的判断を下すことによって、個人の基本的な人権の擁護、社会の安全、福祉の維持に寄与することを目的とする医学である。講義を通して医学を法律、行政、社会などと結びつけて考える力を養うと同時に、臨床医に必要な死体検案の手技、死因診断、死後経過時間の推定などの法医学的知識や思考過程を習得する。							
授業到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 法医学という学問領域について大要を説明できる。 2. 異状死体について理解し、届出義務を適切に理解した上で、死体検案を実践できる。 3. 死体観察の要点を理解し、死因診断の根拠となる死体所見について説明できる。 4. 死亡診断書（死体検案書）などの書類を正しく記載することができる。 5. 実際にあった事件/事故の概要に講義を通して触れることで、現実の社会には様々な背景を持った人々が生活していることを学ぶことができ、臨床現場で診療を行う際にも多様性をもって患者に向き合える姿勢を養う。 							
授業計画							
回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容
1	4/ 5	金	3	講義	三浦雅	法医	総論 1：法医学の定義・役割・対象，解剖の種類と関連法規
2	4/ 5	金	4	講義	三浦雅	法医	総論 2：異状死体の定義と届出義務
3	4/ 9	火	1	講義	三浦雅	法医	死亡診断書（死体検案書）：死亡診断書（死体検案書）の書き方と注意点
4	4/ 9	火	2	講義	宮石	非常勤／学園外	死体現象：早期/晩期/特殊死体現象，死後経過時間の推定
5	4/16	火	1	講義	三浦雅	法医	死体検案：死体検案時の手順と注意点、検案時に有用な医学的検査
6	4/16	火	2	講義	三浦雅	法医	異常環境下の死亡：高温・低温・電気・気圧などによる死亡
7	4/30	火	5	講義	三浦雅	法医	損傷総論：損傷の分類，名称，観察と記録の方法，自他為の鑑別
8	4/30	火	6	講義	三浦雅	法医	損傷各論：鈍器損傷，鋭器損傷，銃器損傷，交通事故損傷
9	5/10	金	3	講義	三浦雅	法医	窒息 1：窒息の定義・機序・分類，窒息所見
10	5/10	金	4	講義	三浦雅	法医	窒息 2：縊・絞・扼，気道閉塞，溺死
11・12	5/16	木	2・3	講義	吉留	法医	中毒 1：法医中毒学総論
13	5/23	木	4	講義	吉留	法医	中毒 2：アルコール，睡眠薬，乱用薬物，農薬，毒物
14	5/30	木	2	講義	三浦雅	法医	内因性急死 1：突然死の定義と社会的問題点，SIDS・過労死
15	5/30	木	3	講義	三浦雅	法医	内因性急死 2：突然死を引き起こす主要疾患
16	6/11	火	3	講義	三浦雅	法医	個人識別：歯牙所見・指紋・DNA 型，不特定多数からの絞り込み，骨からの男女鑑別・年齢推定・身長推定など
17	6/11	火	4	講義	三浦雅	法医	嬰兒殺：嬰兒殺の特徴，嬰兒死体の観察法
18・19	6/17	月	5・6	演習	三浦雅	法医	法医診断学：実例を基にした死因診断・死亡時刻の決定について
20	6/25	火	1	講義	三浦雅	法医	生体の法医学：小児虐待，性に関する法医学
21	9/19	木	3	講義	三浦雅	法医	まとめ：臨床医に必要な法医学的思考と知識

評価方法
<p>[期末試験]80%（五肢択一あるいは択二の問題をマークシート形式で実施する。） [出席状況（受講態度）]10%（講義の出席状況と学習態度とを勘案し評価する。） [その他]10%（法医解剖見学の参加。） [評価方法]多肢選択試験、出席・受講態度評価、論文・レポート [備考]・初回講義（4月5日（金）3限）において試験形式および評価方法、さらに岡山大学での法医解剖見学の案内について説明するため、必ず出席すること。 ・岡山大学で不定期に行われる法医解剖の見学・立会について案内し、期間中に最低一度の見学及び解剖レポートの提出が評価に含まれる。これは講義の内容を実体験をもって理解するための極めて貴重な機会であり、必ず参加すること。</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて
<p>1. レポートは、教員の指示に従って作成すること。レポートに生成 AI を使用する場合は、「川崎医科大学の生成 AI 取扱い指針」に従い、使用した生成 AI の種類、引用箇所、prompt 内容を提示すること。 2. 生成 AI の内容には虚偽が含まれている可能性があるため、必ず自ら根拠や裏付けを確認すること。 なお、提出されたレポートは返却しないが、考察内容にコメントの必要がある場合には講義内で補完する。 講義終了後、あるいは試験前にあった質問については、単にその場での回答にとどまらず、その後の全体に対しての補足をを行うよう心がけている。 試験の成績によって、必要と考えられた部分についての補充授業（対象は全員であるが出席は任意）を適宜行なっている。</p>
教科書
ISBN-978-4-260-04766-1, 標準法医学 第 8 版, 編集: 池田 典昭/木下 博之, 医学書院, 2022/2/1
参考書
ISBN-9784525190262, 学生のための法医学, 田中 宣幸, (株)南山堂, 2006/11/01 ISBN-9784765318235, 死体検案ハンドブック第 4 版, (編著) 近藤稔和, 木下博之, 金芳堂, 2020/03/30 厚生労働省「死亡診断書（死体検案書）記入マニュアル 最新版 (https://www.mhlw.go.jp/toukei/manual/)
準備学習（予習・復習等）
それぞれの講義内容について、教科書・参考書を利用して最低でも 1 時間以上、予習と復習を行うこと。
講義についての注意事項
<ul style="list-style-type: none"> ・法医学の講義の中では、実際にあった事件・事故の概要について聞き、さらに死体写真や死体発見現場の写真を閲覧することが頻繁にある。これらの中には他言してはならない内容が含まれる可能性があるため、医師の守秘義務をしっかりと心得たうえで講義に臨むこと。 ・法医学の講義は、一部他学の非常勤講師の先生に講義をお願いしている。社会的な礼節を弁え、失礼のないように受講すること。
昨年度からの変更点・改善項目
大枠に変更はないが、講義担当者を一部変更した。また、参考書を一部刷新した。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について
<p>本科目履修により、様々な死体の観察法を習得すると同時に異状死体の届出義務を適切に理解することができる。法医学講義で学ぶ死因診断とは、全ての基礎および応用医学分野の知識を基に全身を観察して行われる総合的な診断であり、本科目は、主にコンピテンス・コンピテンシーのⅢ-2 及びⅣ-3 の達成に向けて設定されている。また高齢化に伴い多死社会をむかえている本邦において、適切に死体を観察する能力は、特に地域医療に携わる医師に必須となっており、法医学講義を通して、異状死体の届出義務や死体検案の適切な手技、臨床現場での被虐児への対応など、医師として守るべき社会的規範を習得し、コンピテンス・コンピテンシーのⅠ-2 の達成に繋げることも本科目の主な目的の一つである。</p>
ナンバリング
SALM421